

施設の活用・市民との協力（市民とともに育つ施設）の実践例

○朝顔の種の配布（4月～10月）



宇宙飛行士・山崎直子さんとともに宇宙に滞在した朝顔の後代の種を毎年、配布しています。お配りした皆さんには「私の朝顔自慢」として観察記録などを報告していただき、館内に掲示しています。朝顔の種はうみかぜテラスの花壇で栽培したもののほか、「種の里親制度」として市民の方が育てた朝顔の種も含んでいます。来館者にお配りするほか、近隣の幼稚園や小学校にもお渡ししています。種の収穫には来館している子どもたちにも手伝ってもらっています。

○野菜の収穫体験（3月～5月、7月～8月）



うみかぜテラスのオーリーブ広場で育てている野菜の収穫体験です。3月から5月はえんどう豆、7月から8月はキュウリやゴーヤといった夏野菜になります。主に親子向けの企画になりますが、「懐かしい」と年配の方も興味を示されています。

令和5年度のえんどう豆の収穫体験では、参加された皆さまに SNS の投稿をお願いしました。利用者同士の SNS を通じて、うみかぜテラスの周知が進むこととなりました。

○七夕飾り（7月）



市内の農家さんのご厚意で館内に竹を用意し、七夕飾りを行いました。子どもから大人まで、来館した皆さまに短冊を書いていただきました。

天井の高い地階事務室前フリースペースの吹き抜け部分を上手に活用し、迫力のある七夕飾りになりました。折り紙を利用し、天の川をイメージするなど来館された方に大変好評な展示となりました。

○草花の栽培（通年）



うみかぜテラスには開館時から植えられている植栽がありますが、オリーブ広場や 1F-3,4 集会室外の花壇、2F たまごの広場にある「はまかぜ菜園」には、職員などが育てた草花があります。種まき、苗植え、除草などには市民の有志にご協力をいただき、季節ごとにうみかぜテラスを彩っています。

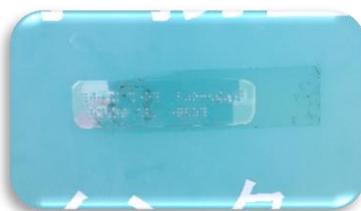
昨年は、朝顔が咲き終わった後に、蔓を使ってリース作りに挑戦しました。蔓を使うという発想が新鮮で、細い蔓を二人で力を合わせて編んでいる姿も見られました。

○イエローフラワーの作成・展示（令和3年度～）



館内（交流ラウンジ、廊下、階段脇など）に色紙で作成した黄色い花を展示し、平和への思いを発信しています。開始当初に展示したイエロージャンボフラワーはうみかぜテラスで活動するアート関係の利用団体の皆さんが作成したもので、とてもインパクトがありました。「世界中の人たちが仲良くなるといいね」という子どもたちの願いもあり、黄色の切り花は現在も展示が続いています。

○館内の手すりなどへの点字標記



うみかぜテラスでは、障がい当事者の皆さんやボランティア団体の活動も盛んに行われています。館内の案内表示や階段の手すりなどに貼っている点字はボランティア団体の皆さんに作成していただいたものになります。主催事業の講師としてもご協力いただいております。うみかぜテラスが目指す多世代交流に欠かせない存在です。